

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500406
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	新居浜市郷3-16-40
自己評価作成日	平成27年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の建物は、平成10年に建築された事もあり決して美しいとは言えません。しかしながら、自然に囲まれた環境と地域性に恵まれ温かい雰囲気には自信があります。南側の三角公園には小さな畑と四季折々の花が咲きホームに暮らすお年寄りはこちらで季節を感じ、地域の皆さんとつながりを持つ絶好のポイントとなっています。支援する職員は、人間性をつくる人材育成への参加や朝礼講和、感謝の人間関係づくりをすることにより、いつも笑顔にあふれ「今を共に生きる」事を実践しています。学習療法にラフターヨガ、法人内事業所との交流を実施するなど様々な角度からのケアを取り入れることで少しでもご利用者様やご家族に人生の終盤の時間を豊かに暮らして頂くことができるようにしています。
あたり前の生活により近い暮らしを追及し、ケアと当たり前をうまく融合させた中に「自分らしさ」をもって生活して頂きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して17年目を迎える事業所は、開設以前から自宅ででの生活が困難になった認知症高齢者を職員がボランティアでお世話をしたという歴史を持っている。法人全体で「利用者と共に、地域と共に」という理念のもと、地域貢献に努めており、事業所も地域の会合に出席して「笑いヨガ」の指導を行う等、活発な地域活動を行っている。また、日常的に近所との付き合いもあり、相互に助け合う関係を築いている。学習療法・回想法・音楽療法を取り入れており、なかでも学習療法は、利用者の思いを引き出す効果を上げている。また、対話の中から利用者自身が生活目標を立てるという取組みを行い、励みになっている。昨年秋から法人の認知症デイサービスと一体運営を開始し、自宅で暮らす認知症高齢者のケアの中での気づきを、利用者のケアにも生かそうと努めている。1ユニットの小さな事業所であるが、「利用者の笑顔」を目標に一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム陽だまり

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 田中 加代

評価完了日

平成27年6月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人全体の理念「ご利用者と共に、地域と共に」。グループホームの理念は「ゆったり笑顔で寄り添います。」キャッチフレーズは「陽だまりは家庭の様な温かさ」を掲げ、いつでも目の届く所で確認することが出来る工夫をしている。各自の勤務表に記載したり、ホーム内に掲示することにより理念としての共有と意識づけへの啓発を行っている。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念とは別に、事業所独自に「ゆったり笑顔で寄り添います。」という理念を掲げ、事業所内に掲示して常に意識するようにしている。また、出勤時に見る鏡の前にも張られており、職員は、笑顔を確認して業務に就くようにしている。管理者は、利用者は淋しいという思いをもっており、いつも笑顔でそばにいて優しい声かけをすることで安心感を持ってもらいたいと考えている。また、笑顔で過ごしてもらうため、利用者が困っている内容を理解し、利用者の立場に立って考えるよう話し合っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会活動、校区活動への利用者も含めた参加を行っている。清掃活動、自治会盆踊り、校区運動会、文化祭への出品などを行っている。子供太鼓の来訪による交流や、地域の住民の方の協力により毎年5月のこいのぼりを設置してくれている。</p> <p>(外部評価) 開設当初より、近所付き合いを大切にし、地域貢献にも力を注いできており、地域に溶け込んだ運営をしている。利用者は自治会の盆踊りや小学校の運動会に参加したり、公民館の文化祭に作品を出展するなどして地域と交流している。同じ敷地内にある「地域交流サロンおひさま」のカレーの日には、利用者がウエイトレスになって来訪者をもてなしている。また、高校生との絵手紙交換では、悩み相談にのって、高校生から感謝の返事が届いている。様々な形で、地域交流が日常的に行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域自治体への出前講座や、生活支援サポーターの研修講師を務めたり、笑いヨカのインストラクターとして地域へ出向くことがある。また、ホーム長が中心となり年2回の老人クラブ交流会へ参加を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>日頃の様子をDVDにまとめて上映することにより、サービスの様子や日常を参加者にもわかり易く知って頂く機会となる工夫をしている。また、避難訓練を運営推進会議の一部として実施するなどし、様々な意見を頂くことができたり、理解して頂くことができるように実施し、取り組みへ活かすことができるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2か月に1回開催する運営推進会議は、土曜日の夕方に行うことが多く家族の参加者が多い。会議では、入居者の状況や活動の様子をビデオで報告する等様々な勉強会を行っている。参加した自治会長は、勉強会で学んだ内容を地区での集会で紹介し広めてくれている。職員もできる限り参加するようにしており、家族や参加者と交流する機会にしている。避難訓練をDVDに撮って報告し、経験を共有しながら意見交換を行ない改善に生かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>市町村担当者との連絡や伝達については、ほとんど行われていない。運営推進会議にご参加いただいた場合はご意見や周知事項などお伺いしている。但し、介護認定の更新方法が変更になった際は、不備のないように努める為、会議へ参加したり問い合わせを実施した。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議に市職員が参加し情報交換を行っている。また、市が主催する研修会に参加したり、「笑いヨガ」の講師依頼に応じて地域に出向き信頼関係を築いている。市職員から「地域交流サロンおひさま」の使用依頼があった時は、利用者がコーヒーを出して接待をしている。また、介護相談員が2～3か月に1回訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれたり、お茶を一緒に飲んで交流している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>夜間のみ施錠を実施している。 身体拘束による危険性についての学習は年1回は必ず実施している。自由であることの安全性の確保に力を入れているが、前年より1件身体拘束に該当する方がいらっしゃる為、職員・ご家族・医師を含めて検討を随時行っている。以前より身体拘束の時間を減少することができるようになっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎年研修会において、拘束をしないケアの理解を深め実践に努めている。また、法人内で人材育成勉強会を開催し、参加者同士の交流等職員の精神的健康を保つ取組みをしている。夜間体動が激しく転落の危険のある利用者には、サイドレールを設置しており、その日の状態に応じて設置時間を決めている。設置については、使用状況を家族に報告し理解を得ている。また、毎月職員間で話し合うとともに、医師にも相談して拘束にならないよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員ミーティング・事故防止会などにおいて虐待防止について学ぶ機会が年1回は必ず設けている。日常のケアの場面でも風通し良い風土づくりが進んでいることにより、注意徹底ができている。また、話し合う機会を設けている。利用者への感謝の関係づくりと、感謝の人材づくりに努めることが虐待防止への教育に繋がっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ご利用者の生活状況に応じて、随時ご家族様より相談を頂いている。また、しかるべき機関を紹介し今後の支援について定期的に話し合う事が出来ている。 学ぶ機会については、前年度については設けることができなかったが、今年度は実施を予定していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度、ご家族様には丁寧に説明と同意を実施してきた。契約内容についてはではないのですが、数年前にご入居頂いたご家族様より今年に入り、再確認される出来事があった。その原因として私どもの情報提供した内容がもっと丁寧にあればよかったと思われる事があった。それにより急遽、全ご家族様への再確認を実施しさせて頂く事があった。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 昨年は、運営推進会議を利用した家族交流会を実施した。家族交流会では、実践報告会を盛り込むなどし最後にはご家族様が知ることができ、意見や要望を言うきっかけづくりとなった。また、それらは随時運営に反映させている。 (外部評価) 運営推進会議や面会時に家族に積極的に声をかけ、良好な関係をつくり、気軽に相談してもらえるよう努めている。また、毎月介護計画の評価に便りを添えて送り、日頃の様子を知らせている。家族の要望に応じて、車いすでの移動が困難な利用者を福祉車両で送迎したり、お孫さんの結婚式に出ることができて喜ばれたこともある。家族にも、もちつき、流しそうめん、敬老会、夏祭り等に参加してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員からの意見については、業務上における申し送りなどの利用をした意見を出す機会を設けると共に、月1回のミーティングに寄せての資料に口頭で伝えにくい事は記載し管理者へ届くようにしている。年間に3～4回程度の面談においても実施し、しかねべき対応をしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、全員年度始めに「マイケアプラン」を作成し、定期的に管理者と個人面談の上、振り返りを行っている。法人全体で人材育成に力を入れており研修の機会も多い。また、職員が育児と仕事を両立できるよう勤務体制を工夫して職場復帰を促している。職員は、それぞれの職種が専門性を生かしながら意見交換ができると感じており、様々な機会を利用しケアの質の向上を目指している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 法人内の運営会議において、都度条件や制度改正などに伴う給与面での待遇についての説明をうけ、各自へ周知を実施している。処遇については、職員の立場にたった選択をして頂けると感じている。それらの意見を挙げる機会も同時に設けてくれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人では、職員各自の「マイケアプラン」による目標設定を実施し、自己研鑽に役立っている。他にも年間計画により職員が各研修を受講することができるようにしている。月に1回のミーティングを利用した勉強会も行っている。テーマを事前に設け1人1人の力量の向上に繋がるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 学習療法による勉強会や研修により横の関係づくりの機械が出来ている。他にも、他事業所との情報交換を実施することで、サービスの向上に繋がるようにしている。地域密着サービスなどがすすめる相互研修には、職員配置の状況に考慮し見合わせているが体制が整えばそういった機会を設けたい。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人のリロケーションダメージを少なくする為に、サービス利用前からの関係を作ることが出来るようにしている。ご本人を中心にケアを勧めることができるように聞き取りや、出来る事、したい事などを見極めている。ご本人が安心できるような工夫を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始にあたり、ご家族とお話しをする機会を設け聞き取りを実施している。ご家族の思いにも目を向けながら共感することでご家族との関係づくりに繋がるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 聞き取りなどの中から、家族の希望する支援を見極めグループホームへの適応も含めて対応するようにしている。また、開始を決めるにあたってサービスの形態を理解することができるように説明を行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 認知症の共同生活を行うに当たり、一方通行な介護になるのではなく法人の理念、陽だまりの理念にもあるように「共に今を生きる」を大切にしている。相互の関係づくりで職員が「ありがとう」とご本人に言うことができる関係づくりを大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム・法人における各種行事や運営にご協力頂くことで、家族と本人が共に過ごす時間も忘れずに設定している。訪問できるご家族がいない場合にも配慮し、逆に訪問する機会を相談するなどして家族と一緒に本人の生きる意欲を引き出す役割と絆を深める時間を提供することができるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のグループホームであることを活かし、ご家族のご了解を得たうえで馴染みの場所へ出かけたり、入所前のデイサービスやケアハウスとの交流を実施するなどしている。 (外部評価) 学習療法を通して知り得た情報をもとに、近所に住む兄弟や従兄弟に会いに行ったり、かつて働いていた塩田跡を訪ねたり、資料館を見学する等の支援をしている。入居前に利用していたデイサービスと一緒に行事を行なうことも多く、顔見知りの人と出会って話しをしたりしている。また、隣接する小規模特別養護老人ホームの行事に参加したり、「地域交流サロンおひさま」でウエイトレスとして来客をもてなす等新たな社会交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 症状やレベルなどの差のある中で、孤立せず一緒に暮らす者とおしとしての個性を活かしつつ、配席や外出、会話の成立など対しての支援を行い、介護者と利用者以外の社会的な一面を大切にできるようにしている。過剰な影響のある場合は、配慮につとめ関係性が成立するように職員が間に入っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設等への移動による契約終了の場合は、十分な情報提供を実施し、経過についてもフォローを行うなどして支援できるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 可能な限り、ご本人の希望や意向を把握するようにしている。小さな事でも本人の選択しやすい声かけなどにより認知症の症状に合わせた関わり方で聞き取るようにしている。症状が進行し、困難な場合はご本人の習慣や嗜好、生活歴などからアセスメントを行い希望により近い意向の把握ができるようにしている。 (外部評価) 職員は、日頃から利用者の話しをよく聴くよう心がけている。また、学習療法を行なうようになり、回想法を通して要望を引き出すことができるようになったと職員は実感している。一緒に毎月の暮らしの目標を考えることで、心が元気になるという利用者もいる。久しぶりに着物を着たいという利用者の希望に応え、自宅まで取りに帰り事業所で着付けを行ったり、入居前にいつもお詣りしていたというお堂に利用者と共に訪れ、久しぶりに手を合わせたりすることができて喜ばれたこともあった。また、思いや意向を話すことが困難な利用者は、表情や様子を見て汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしの中でサービスの利用をしている場合は、それぞれのサービス利用状況や留意点などを提供して頂いている。生活歴や暮らし方など、ご家族の中でもご姉妹などからも生活歴の情報を頂くことで認知症の方への適切な対応を実施することに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 下は、73歳から上は103歳までと親子ほど年の離れたご入居者様から始まり症状もタイプも違う方々が暮らしている為、食事の時間や活動のとり方に至るまで、可能な範囲で個々の過ごし方を選択するとともに、集団でいることのメリットも忘れずメリハリをつけて生活して頂けるように臨機応変な対応に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月に1回は、ケアプランの評価を行いご家族様へ各担当がお手紙を添えてサービスの提供状況を報告できるようにすることで、ご家族様からのご意見が早く頂くことができるとし、相談やご意見を頂戴している。</p> <p>(外部評価) 入居前に看護師を交えてカンファレンスを行ない、初期の介護計画を作成しており、作成後は、担当職員を決めて毎月1回計画の評価を行ない、ミーティング時に職員で話し合いを持って検討している。利用者の状態に変化がある場合はその都度、通常は6か月ごとに介護計画の見直しをしており、計画書については、家族が来訪した時に説明し同意を得ている。また、毎月の評価表を担当者の便りと共に家族に郵送し状況を知らせている。</p>	<p>工夫しながら改善してきた記録様式が整備されており、介護記録は科学的記述方式が取り入れられている。事実記載と同時に評価、対応が記載されていてモニタリングに活かされている。記録は、ケアの検証や法的根拠になると共に、利用者の生き様を残すという意味もあるので、職員の心に響いた利用者の言葉を記録に残すことで、より深く利用者を理解しケアの向上につなげてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常チェック表や介護経過記録は、ミーティング・ケアプラン評価時に各担当者が1ヶ月を振り返りデータを作成、それぞれのケアの見直しや情報共有に活かすことができる仕組みづくりをしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) キーパーソン以外のご家族様にも評価や1ヶ月の様子、お写真を利用するなどして希望に応じて生活の様子をお伝えするようにしている。 病院からの早目の退院についても、ご家族の意向を受けて医師と相談した上で早期に受け入れ対応するなどを実施。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣住民の方で絵手紙の先生をかって出て下さったり、高校生との絵手紙交流実施。地域向けに実施されているマルシェやカフェへ参加することで、楽しく豊かに地域と関わりながら暮らすことが出来る支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望者に対して協力医による月1回の往診が設けられている。それ以外にもご家族と本人が希望する病院を利用して頂いている。また、必要に応じてこちらからの情報を集約し提供することでホームでの生活と目的が医師にも伝わるようにしている。	
			(外部評価) 利用者は、希望するかかりつけ医を受診できるようになっており、協力医及び歯科、眼科医の往診等を受けている。入居時に協力医に変更したいと希望する利用者も多い。日常的な看護師の健康管理や医療機関等とも連携ができていますので、安心して医療を受けることができる。家族付き添いで外来受診をする際は、必要とされる情報書類を家族に手渡すなど診療後の情報交換を行い共有するようにしている。また、家族の都合がつかない場合は、職員が付き添って受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護・介護ともに業務日誌を活用し、情報の提供を実施するようにしている。また、看護師は介護職が記録した日常チェック表などからも随時適切な情報を得ることができる記録を作成している。 日頃より看護師に随時、報告や相談をし指示を得ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院については、介護サマリの利用やご家族によっては状況の把握が難しい場合、同行し情報提供等の支援をしている。また、よく利用する病院については「地域医療連絡会」などを利用し要望や関係づくりをすすめている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族との話合の場を日常的にも行っているが、細かい重要な項目については、必ず1年に1回は今後の意向や方針などを踏まえてお聞きする機会をつくっている。終末期についても運営推進会議を利用したり、随時医師を交えたりしながら、支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望に応じて終末期ケアを行なう方針があり「終末期ケアに関する指針」を作成している。利用者の様態変化に応じて、医師、看護師、家族と話し合いを持ち、チームで終末期ケアを実施している。見送り後は、撮影した写真をDVDに編集し家族に贈っている。現在も終末期ケアを行っている利用者があり、家族が毎日面会に訪れ、職員と共に介助を行っている。また、運営推進会議では家族と共に勉強会を行い終末期ケアについて学ぶことができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職場内研修を利用して緊急時の対応について、一般的な対応、個別の特性に合わせた対応を実施している。緊急時の連絡体制・判断基準についても業務日誌にファイリングし、どの職員も対応することが出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 1年に2回は避難訓練を実施している。前年度は地震想定での炊き出し訓練も実施した。新人や職員の入れ替わりがあった場合は、訓練対象者として必ずそういった職員を中心に実施。運営推進会議でご家族様にも訓練に参加して頂く機会もあった。 (外部評価) 避難訓練を年2回実施しており、内1回は消防署立ち会いのもと行っている。昨年は、夜間の地震を想定した避難訓練を法人全体で実施し法人内の応援要請などを確認した。また、緊急通報先として地域住民の登録をしており、非常ベルを押すと屋外に非常ベルが鳴って近所の人にも知らせる仕組みになっていて、緊急時の協力が得られるよう依頼している。災害備蓄品は法人全体のものもあるが、事業所としても独自に水や食料等必要分の備蓄はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自室での過ごし方にこだわりをもった利用者に対しては、安全面についての確保以外については自由に過ごしい頂けるようにしている。また、言葉かけについても「人生の先輩」であるご利用者様に対して尊敬の気持ちを忘れない。さらには、時に孫のように家族のように温かく対応するなど場面を選んだ声かけをするようにしている。 (外部評価) 利用者に様々な生活の知恵を教わることも多く、必ず「ありがとう」という感謝の気持ちを返すようにしている。人生の先輩として敬う気持ちを持って、一人ひとりの人格を尊重するケアに努めている。利用者の呼び方については、反応をみながら愛称で呼びかける場合もあるが、基本は〇〇さんと呼ぶようにしている。また、排泄介助を行なう際は、下着を下ろす前にバスタオルで覆う配慮をしており、入浴時も恥辱心に配慮したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定・自己選択については、認知症の症状に合わせて選択の方法や場面によって現実的に対応可能なものについては、できるだけ意思を確認するようにしている。洗濯する場面を1つでも多く提供できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームは、職員の仕事場でもあります。それよりも大切な事はご利用者の生活の場であるということです。基本的には「ご利用者本位」のケアやペースを優先するようにしている。支援についてはある程度レベルに沿った業務を行っているが柔軟に職員は対応することができるよう工夫をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日、必ず皆さん鏡を見て頂くようにしている。衣類については、ご家族の協力を得ながらある程度ご家族が季節によって調整して下さっている。中には、ホームから衣類の買い物と一緒に出向き購入される方もいらっしゃいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の状態や嗜好に合わせて食事の内容を提供できるようにしている。季節に合わせて一緒に漬物を作ったり、料理や餅つきをするなどの行事に参加して頂いている。日常の場面の中でも、力に応じた作業を皆さんに取り組んで頂いている。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士の献立を中心に、専任の職員が調理をしている。献立については、近所からの差し入れがあった時など独自にアレンジすることもある。誕生日は、利用者に希望を聞いて作ったり、外食に出かけるなどして特別の日としてお祝いしている。また、〇〇週間と銘打って鍋物やイタリアンなどのメニューを取入れたり、「鯖会」では、大きな鯖の解体ショーを見た後、さしみをいただくなど食べる事の楽しみを増やす工夫をしている。職員も一緒に食卓を囲み和やかな雰囲気です。また、料理が好きな利用者は職員と一緒に台所に入り、キュウリの浅漬を作ってくれたこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士による献立を利用している。食材の担当職員が、ご利用者に合わせて献立のチェックを実施している。水分については、1日1500ccをめざし摂取することができるよう自立支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 3食後の口腔ケアを実施している。職員が口腔状態を確認し、異常のあった場合は法人内歯科衛生士によりチェックして頂き、指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 水分・食事・運動によって自然な排泄ができることを目標に取り組んでいます。基本的にやむを得ない方以外は夜間帯についてもトイレにて排泄をする支援の実施、日中は布パンツの使用をするなどしている。</p> <p>(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを記録し把握しており、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。日中は、ほとんどの利用者が布パンツとパットで過ごしている。オムツフィッター（排泄支援担当職員）が利用者の状態にあった排泄用品を選ぶよう助言し排泄の自立に向け努力しており、そのおかげでもりがちな外出を嫌がっていた利用者が進んで外出するようになったケースもある。職員は就職後全員がおむつ使用を体験して、利用者の心情を理解するよう努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご利用者個人個人に合わせた水分量の確保と、食事以外にも身体状況に合わせたファイバーやセンナ茶の使用により定期的に排便することが出来るようにしている。その為の記録や申し送りも実施している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 1日のうち、入浴の提供時間については現実的に午後を中心に実施している。タイミングや回数の希望については対応することができている。入浴を楽しむという点については、季節に応じてゆず湯にするなど工夫するようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望に応じ日中いつでも入浴できるように風呂の用意をしている。また、浴槽は両側から介助ができるよう配置されており、利用者の状態に応じた福祉用具が活用できて安全に入浴できるよう支援している。入浴剤の使用や柚子湯、菖蒲湯等季節の湯を楽しめるような工夫もしている。入浴が苦手な利用者には、特別に独自のシャンプーやタオルを用意して声かけをするなどして、入浴できるよう支援している。また、大きな湯船に入りたい時には、デイサービスセンターのお風呂を借りて入浴している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) ホームでの寝具の用意はあるが、個々の希望に応じて好みの物を用意されている方もいらっしゃる。保安灯をつける事が嫌なご利用者には、全部消灯しトイレ側の灯りが少し漏れることで安全を確認できるようにするなどの工夫を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬については、看護師が用法容量についての把握をし、変更や注意点については都度周知してもらえるような体制作りをしている。事務所には、各自の服薬についての一覧をいつでも確認することができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 月に1回は法人内のカフェのウェイトレスとして出かけていく方や、テレビを見るのが好きな方、本を読むのが好きな方など個別に過ごすことができるプログラムづくりをしている。他にも、学習療法の時間を利用して馴染みの生活行為や楽しみを探る時間があり、役に立っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日帰り旅行やイルミネーション見学、夜市、運動会など戸外に出掛けられる機会を年間を通して企画するだけでなく、本人の希望を反映し松山お椿さんの参拝に行くなど、ご家族の理解と協力を得ながら取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所の敷地周辺に散歩コースが設けられており、天気の良い日は散歩を楽しんでいる。隣接する法人の託児所や地域交流サロンおひさまに出かけて、こどもたちや近所の人と交流する機会も持っている。また、毎年1回日帰り旅行を計画し、家族と共に遠出をすることが励みにもなっている。利用者の希望による椿祭りへの参拝は、今では恒例となっている。利用者は、夏になると市内商店街で開催される土曜夜市へ職員と出かけることを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金は、お預り金としてホームで管理していますが、パンの移動販売やイベントや旅行先では財布をお渡ししてお金を使用して頂くことがある。職員へ買ってしまおう方もいらっしゃるが、ご家族様へ了解を経ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 公衆の電話の設置はありませんが、希望者にはホーム固定電話を使用して頂いています。また、ご家族からの電話も取り次いでいます。絵手紙教室で作成したハガキを家族へ送付することもあります。最近ご入居の方については、携帯電話にてご家族と連絡をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングや食事用のテーブルの配置については、ご利用者の状態に応じて変更することがあります。他にも、みやすい高さに時計や掲示物を配置するなどしている。 カーテンが不快に感じるご利用者については、ご家族の同意を得て目隠しシートにて対応することで安心して過ごして頂けるようにしている。</p> <p>(外部評価) 建物の中央にリビングとオープンキッチンが配置され両側に大きな窓があり、明るく風通しが良い。ソファやテーブル席が配置されていて、利用者は日中のほとんどを思い思いの場所で過ごしている。リビングの片隅には、事業所のアイドルになっている猫のケージが置かれており、利用者は猫に癒してもらっている。また、廊下の壁には、行事写真や利用者が書いた絵手紙、交流のある高校生の便りなどが掲示され、玄関の花瓶には、利用者が庭に咲いた花を飾っており、暮らしの様子を知ることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間、特にリビングについては職員がお席を誘導することもあるが、各自好みの場所へ移動される事もあり、場合によって自由に選んで頂いている。逆に固定の場所でないと落ち着かない方については、できるだけ変えないよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室については、小さな空間でありながらご本人が一番落ち着く事ができるように馴染みの道具や仏壇などを持ち込まれており、自分らしい空間にすることができるようになっている。安全面でご希望の居室しつらえが難しい場合は、家族と相談し対応している。</p> <p>(外部評価) 居室は和室と洋室があり、エアコン、ベッド、整理たんすが備え付けられている。使い慣れた机や椅子、たんす、テレビ等が持ち込まれ個性的な部屋になっており、仏壇を置いて毎朝遺影に手をあわす利用者もいる。また、たんすの上には鏡や化粧品が置かれ生活感があり、壁には家族写真の他、利用者の手作りで職員と共に考えた毎月の生活目標が書かれたカレンダーが掛けられ利用者の張り合いになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ご利用者の生活の場で働かせて頂くことに感謝しながら、できることやわかる事で自分で生活することが出来る部分を活かして頂けるような表示や配置にしている。</p>	